

# 共立女子第二中学校

2023年度

## 入学試験問題（1回AM）

### 【 国 語 】

試験時間 50 分

### 【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一～三で、全部で11ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督かんとくの先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

①ねこは、野生のヤマネコであるリビアヤマネコを、人類が家畜化することにより、現在のねこ(正式和名は「イエネコ」となりました。ほんの少し前までは、人類とヤマネコが古代エジプトにおいて初めて出会い、家畜化が始まったと考えられています。

A、最近の考古学やDNA解析の研究から、人類とヤマネコが関係を持ち始めた時期は、いまからおよそ1万年近くさかのぼることがわかってきました。その場所は、チグリス川とユーフラテス川の流域のメソポタミアの地であると考えられています。

②の生活からこの肥沃な土地で農耕を始めた人類は、大切な収穫物であり、財産でもある③を食い荒らすネズミに、随分と悩まされたことと思われます。そのようななか、近くの荒野に棲むリビアヤマネコが、好物である④を求めて人間の⑤にも現れるようになりました。人間もこの動物の有益さに早くから気づき、集落に自由に出入りすることを許していたと考えられます。多くの家畜は、人間が野性の動物を野山から無理矢理連れてくることによって、家畜化が始まったのに対して、ねこの場合は、むしろ原種であるヤマネコのほうから人間に近づいていった点がとても面白く、ねこが特殊な家畜であることを物語っています。

このように、いまからおよそ1万年前の、ネズミをめぐる利害関係の一致がきっかけとなった人類とリビアヤマネコとの出会いは、「ねこ」への家畜化の始まりとなりました。その後、メソポタミアから、古代エジプトも含めた周辺の地域にも広がっていったと思われれます。古代エジプトでは、いまから少なくとも3500年ほど前には、現在の「ねこ」とほぼ同じような体の大きさや形にまで家畜化が進み、性格も人間と一緒に家のなかで暮らせるくらいマイルドになったと思われる。B、家畜として完成された「ねこ」は、交易などにより、エジプトから世界各地へと広まっていきました。

ここで古代エジプトでのねこの待遇について少しお話しします。古代エジプトにおいて、ねこは神々のひとつとされています。それは「バステト」と呼ばれるねこの姿をした女神です。バステトは繁殖や性愛を司る神として、人々から崇拜されていました。当時は、飼っているねこが死ねば、家族全員が眉をそり落とし、喪に服し、そして遺体はミイラにされて、地下の共同墓地に安置されたといわれています。また、<sup>⑦</sup>当時はねこを故意に殺すと死罪だったそうです。路上などに死にかけたねこがいたりすると、

⑧、まわりの人々は一目散にその場から逃げ去ったとのことです。現代の常識からすると、信じがたいような、ねこをめぐる

る奇妙な習慣の数々が、古代エジプトでは行われていたようです。(中略)

日本へねこが渡ってきたのは、いまから1200～1300年前の平安時代の初期の頃、中国から人間によって持ち込まれたといわれていました。ア 日本の書物のなかに、ねこが初めて登場するのは、宇多天皇の日記である『寛平御記』で、889年に書かれた

たものです。その当時、ねこは「唐猫」と呼ばれ、皇族や貴族たちから大切に扱われていました。いぬのようにヒモでつないで、宮中の屋敷内で飼われることも多かったようです。イ 『源氏物語』のなかには、ねこが登場人物の人生をも変えてしまった有名なシ

ーンがあります。ウ 話の結末はともあれ、時代を経るに従ってねこは、高貴な人々の愛玩動物から、ネズミ捕りの名手として、次第に庶民の生活のなかにも広まり、江戸時代には浮世絵を中心とする絵のなかにねこはたびたび登場するようになります。エ

先ほど、ねこが日本に到達したのは平安時代の初期頃と書きましたが、最近の遺跡の発掘による発見から、ねこが日本に入ってきた年代は、さらに古いと考えられています。その発見のひとつは、2007年に兵庫県姫路市の見野古墳群から発見された陶器片です。須恵器と呼ばれるその陶器には、ねこの足跡がっていました。C、当時の工房のようところで、窯で焼く前の乾燥工程

の陶器が、台の上にとり狭しと並べられていたのでしょう。その台の上を、ねこがわずかな踏み場所を探しながらキャットウォークしていたところ、バランスを崩して、まだ柔らかい焼く前の陶器を踏んで、足型を残してしまったものと推測されます。ねこを飼っている方なら、その時の状況とねこのしぐさが容易に想像でき、思わずほえんでしまうのではないのでしょうか。この須恵器のつくられた時代はいまから約1400年前の飛鳥時代ということですので、これまでの定説よりも、もう少し早い時代にねこが日本に入ってきたこととなります。

D それから少し後、今度は長崎県壱岐島の「カラカミ遺跡」から、ねこのものと思われる骨が見つかりました。放射性炭素年代測定によると、この骨はいまから約2100年前の弥生時代のものであることが明らかになりました。このねこが当時の人間とどのような関係だったのかは、今後の研究によって明らかになると思います。また、これまでの研究からは、中国にねこが入ったのは、いまからおよそ2000年前と推測されていましたので、このカラカミ遺跡からの発見は、もしかするとねこが世界に広まった経路や年代についての、大幅な見直しにつながるかもしれません。今後の調査や研究結果が楽しみです。

〔山根明弘「ねこはすごい」による〕

問一 ①「ねこは、野生のくとなりました。」とありますが、人間とねこの出会いのきっかけとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

- ア ネズミをめぐる利害関係が一致したこと。      イ 人間がこねこの愛らしさに気づいたこと。  
ウ 人間がヤマネコを無理につれてきたこと。      エ ヤマネコがイエネコにほろぼされたこと。

問二 A く D にあてはまる語として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。（記号は一度しか使えません）  
ア さらに      イ おそらく      ウ そして      エ しかし

問三 ② く ⑤ にあてはまる語として最も適するものをそれぞれ選び、筋の通った内容になるよう、記号で答えなさい。（記号は一度しか使えません）

ア 集落      イ 狩猟採集      ウ 穀物      エ ネズミ  
問四 ⑥「マイルドになった」の意味として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 活発になった      イ かしこくなった      ウ 用心深くなった      エ おだやかになった  
問五 ⑦「当時はねこを故意に殺すと死罪だった」とありますが、その理由を本文中の語句を使って説明しなさい。

問六 ⑧ にあてはまるものとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

- ア 自分にねこ殺しの罪をかぶせられないように      イ かわいそうなねこを見ていることがつらいので  
ウ 他にも死にそうなねこがいるかもしれないので      エ 見つけた人がねこを飼わなくてもすむように

問七 ⑨「その当時く扱われていました。」とありますが、その理由としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 高貴な人々が好んで飼う愛玩用動物だから。      イ 宮中の宝物をかじるねずみを退治する動物だから。  
ウ 日本ではまだ数が少ない貴重な動物だから。      エ 中国から船に乗せられて来た外来の動物だから。

問八 次の連続する二文が本文中よりぬけています。本文中の **ア** **イ** のどこにもどせばよいですか。記号で答えなさい。

それは、宮中で飼われているねこが関わるちょっとしたアクシデントによって、光源氏の美しい妻である女三宮の姿が、柏木という若い男に見られてしまう場面です。それが柏木の恋心に火をつけて、とうとう許されぬ恋へと発展してしまうというお話です。

問九 ねこが日本に到達した時代についてはいろいろな説がありますが、1 「飛鳥時代」と、2 「弥生時代」にねこが日本にいたと考えられる証拠はそれぞれ何ですか。本文中の語句を使って二十字以内で答えなさい。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（本文には一部改めたところがあります）

「あの、きいてもいいですか、ぼくに楽譜をくれたわけ」

カンナは「そらきた」という顔をした。

「またあえたし、約束やから話そか。カイくんが電車の中で楽譜読んだとき、からだは旋律をうたっているのがわかったの。そのあとで、カイくん、なにかが天にのぼるって、いうたでしょう。わたしが何週間もかかって手に入れたものを一瞬でとらえる才能を持つてる子やと思たら、くやしなって、いじわるしてみたかったの」

「いじわるって……」

カイトは、なにもされたおぼえがなかった。

「はじめて会うたお婆さんから楽譜押しつけられたら、びっくりするでしょ。なんでやろて、悶々と悩むやん」といって、カンナはにっこりわらった。

「びっくりはしたけど……」

「ほら、ここは、おばさんちがいます、お姉さんです、ていわな」

「あ、ごめんなさい」

「ただのつつこみやから、あやまらんでええわよ」

カンナの明るくて流れのいいしゃべり方がモーツアルトだと、カイトはあらためて思った。

(ぼくは、たぶんモーツアルトが好きなんだ)

「ほんまのどこ」

と、カンナはつぶけた。

「先輩の曲に感動してくれたから、持っててほしかったんかもしれん。先輩のおばあさんな、女学生るとき、広島で被爆しはってんて。そのとき、同じクラスの子たちがたくさん死にはって、生きのこったおばあさんはずっとずっと、その子らにわるい思うて生きてきはったらしい。そのことを知った先輩は、花が大好きやったおばあさんのために曲をつくらはったの。花びらが天国のおばあさんにとどくようになって、祈りをこめてな。そやから、あの曲は、広島復興と希望の曲」

(展開部の花の祭りに感じたものがなしさは、廃墟になった町の復活を意味していたんだ。そして、ラストの、花びらが舞いあがる感じは希望なんだ)

カイトは、曲の解釈がまちがっていなかったことを知って、うれしかった。カンナは、さらにつづけた。

「なにかが天にのぼるって、カイクンがいうたとき、くやしかったけど縁をつないでおきたかったんよ。そやから、またあえた」

「でも、ぼく……」

カイトは、「もうバイオリンは弾かない」といえなくて口ごもった。

「なんで、バイオリンやめたいの？ くらいになつたわけやないでしょ。なにか、いやなことがあったんやね」

カイトの頭の中に、コンクールでのモネのおおげさなパフォーマンスや、「華やかな演奏を」という先生のことばがよぎった。とつぜん息苦しくなって、カイトはあえぐように早い呼吸をした。息をすおうとしてもうまくすいこめなくて、どんどん苦しくなって

いく。

「カイくん、だいじょうぶやから、ゆっくり息をはいて」

カンナに肩をだかれてカイトは、かなしばりからとけたように、ふうっと息をはきだした。肩にしっかりと置かれた手に助けられて深く深く息をはいた。すると、楽に息を吸うことができた。花の香りがふわりと鼻をかすめる。カンナのシャンプーの匂いだろるか。

「ジュース飲もか」

カンナがストローをさしてくれたニンジンジュースをごくごく飲んだ。ニンジンのほのかなあまさが気持ちをしずめてくれた。

「ニンジン百パーセントか。意外なあまさやね。おいしいわ」

カンナは、さいごのひと息をちゆるちゆると音をたててすすった。カイトははずかしくて、ちゅつと音がでたところで終わりにした。

「話してみたら、どう。いやなことは話さんでええから。声にしてみたら、わけわからんことも見えてくるかもしれへんし。思いつくまま、しゃべったらええのよ」

カンナにいわれて、カイトは一番近いできごとが頭にうかんだ。

「ぼくがピアノを弾いて、タヅさんがナギネエとおどりだしたとき思ったんだ。タヅさんのダンスは心からでたパフォーマンスだつて。かっこわるくなかなかかった。楽しくて、ぼくもいっしょにおどりたくて。でも、ピアノは持っていけないし、バイオリンならタヅさんのそばで弾いておどれるのって思った」

「そう、おどりがかったんだ」

カンナは、カイトのつぎのことばをまつ表情で相づちを打った。

④「タヅさんは、かっこわるくなかった」

と、口にだしてからカイトは、はっとしてだまりこんだ。

(これはさっきもいった)

かっこわるいといえ、すぐに頭⑤にうかぶことがある。そのことを考えると胸がどきどきして、いらいらして、どうしようもなくはずかしくなる。

「カイくんは、なにがかっこわるいと思うの？」

⑥ ということばにこだわっていることをカンナに見すかされたと思うと、カイトは顔がかーつと熱くなった。

(ぼくの心は、まっ黒だ)

⑦ カンナの顔を見ることができなかった。

目のまえの川をカヤックにのったひとがアメンボのようにすべっていく。さっきまできそうように鳴いていたセミの声が小休止している。赤信号がかさなったのか車の音もとぎれた。町の喧騒けんそうの中に⑧とあいた空洞くうどうにカイトはひとり、置いてきぼりにされた気分だった。

(なぜ本戦にのこれなかったのか、ぼくにはわかる。どうせ負けおしみだってこともわかっている。陰口かげぐちをいう人間だと思われたなく、だまってるだけ)

カイトのまえにはずつと、厚くて重い扉とびらがあった。閉じこめている、まっ黒な思いがふきだしてくるような気がして、見えないふりをしてきた心の奥おくにある扉だ。ぜったいにあけるもんかと、がんばってきた。

「あかん、フリーズしてるわ。ほな、リセット……」

「だめ」

カンナのことばをカイトはさえぎった。ここでリセットしたら、もう、まえに進めない気がした。

「コンクールで、森堂もりどうさんのバイオリンはほんものだった。でも、モネちゃんのは森堂さんのまねだ」

モネが情感をこめて熱くなればなるほど、袖そでで見ていたカイトの心は、⑨としていった。審査員しんさいんにアピールするための、これみよがしの演技のように見えて、見ているのがはずかしくなったのだ。だから、カイトはできるかぎり感情をおさえた演奏をした。ふだんより冷静に曲の情景だけをつたえようとしたのだ。

「わざとらしいパフォーマンスは、かっこわるいと思う。コンクールで勝つために演技をしたら、一生うその演奏をしなくちゃいけ



ない気がする。そんなことできない。でも、モネちゃんはまだねをして勝った。ぼくだって、まねすれば勝てたんだ」

カイトはいいはなった。口にだしてはいけないと、封じこめていた思いだった。

(扉をあけてしまった)

カイトは我にかえって、すこし気まずい思いでだまりこんだ。カイトが毒をはきだすあいだも、だまりこんでからも、カンナはやわらかいほほえみを絶やさなかった。そして、⑪ といった。

「コンクールが性にあわへんのやね。でも、バイオリンは好き」

カイトは、目のまえをふさいでいた扉の正体が見えた気がした。

〔西村すぐり『ぼくがバイオリンを弾く理由』による〕

問一 ① 「曲の解釈」とありますが、「カイト」はどのような解釈をしたのですか。その説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 広島で被爆し仲間を失ったことで、生き残ってしまった罪悪感を伝えるための曲。

イ 花が大好きな先輩の安らかな眠りを祈り、思いが天国までとどくことを願った曲。

ウ 祭りの明るさの中のものがないさと、花びらが舞い上がるような希望を感じる曲。

エ 広島街や人々が戦争の悲劇から立ち上がる復興と今後の希望へ祈りをこめた曲。

問二 ② 「くやしかった」とありますが、「カイト」のどのようなところに対してくやしさを感じていますか。解答らんに合うように、本文中より三十五字で探し、はじめと終わりの五字をぬき出しなさい。

問三 ③ 「おおげさなパフォーマンズ」とありますが、具体的には誰のまねですか。その名前を本文中よりぬき出しなさい。

問四 ④ 「タツさんは、かつこわるくなかった」とありますが、なぜですか。理由となる部分を探し、解答らんに合うように、本文中より十二字でぬき出しなさい。

問五 ⑤ 「頭にうかぶこと」とありますが、それは誰のどのような様子ですか。本文中の語句を使って二十字以内で説明しなさい。

問六 ⑥にあてはまる一語を、本文中よりぬき出しなさい。

問七 ⑦「カンナの顔をみる事ができなかつた」とありますが、なぜですか。説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア コンクールに勝つただけの演技はどうしても許せないで見すかされたと思ったから。

イ コンクールに負けたことで全ての人に対して否定的になっている心を見すかされたと思ったから。

ウ 単なるコンクールの報告なのに、一つの言葉にこだわりすぎたことにはずかしいと思ったから。

エ 大好きなカンナに自分の弱いところを見せるような話をしてしまって、はずかしいと思ったから。

問八 ⑧・⑨・⑩にあてはまる語として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ひそひそ                   イ しらじら                   ウ ぽっかり                   エ ぼつり

問九 ⑩「封じこめていた思い」とありますが、どのような思いですか。本文中の語句を使って二十五字以内で説明しなさい。

問十 本文の内容としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア カンナとの会話がとぎれ、セミの声も車の音もおさまった静けさの中で、カイトは自分の弱さに気づいていく。

イ カイトは、カンナからの甘いジュースを飲む場面から心がほぐれ始め、自分の心の奥を見つめ直している。

ウ カンナは、カイトの話をほえみを絶やさずゆっくり聞き、彼が動き出すきっかけを与える役目を果たしている。

エ カイトは、コンクールに勝ちたいという自分の強い思いに気づき、一生うその演奏をしていく覚悟をしている。

《問題は次のページに続きます》

三、次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の□にあてはまる漢字を答えなさい。なお、それぞれ二つの□には同じ漢字が入ります。

- ① □体□命                      ② □進□退                      ③ □画□賛                      ④ □三□四

問二 次の①～④の熟語の構成の説明として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 観劇                      ② 断続                      ③ 世論                      ④ 映写

- A 同じような意味の字を組み合わせたもの。                      (例) 良好  
B 反対の意味の字を組み合わせたもの。                      (例) 大小  
C 上の字が下の字を修飾しているもの。                      (例) 緑色  
D 下の字が上の字の目的語になっているもの。                      (例) 登山

問三 次の①～④のことわざの「続き」として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 情けは                      ② 清水の舞台から                      ③ 火のない所に                      ④ 枯れ木も

- ア 山のにぎわい                      イ 煙は立たぬ                      ウ 飛びおるる                      エ 人のためならず

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 呼吸を確認する。      ② 旬の食べ物で四季を感じる。      ③ 模型で筋肉の位置を学ぶ。      ④ 垂直方向に飛び上がる。

問五 次の①～④の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① 最速の記録をジュリツした。      ② 丘の上に家をケンチクする。      ③ 水とサトウを鍋に入れる。      ④ ひざがイタイ。